

第3章 専門教育科目

第1節 文学部

学部概要

國學院大學は、明治15年（1882）に設立された皇典講究所をその母胎・前身とし、国史・国文・国法を専修する学校として構想された経緯があります。文学部は、その皇典講究所設立の精神や研究・教授の歴史と伝統を直接に担う学部ともいえるでしょう。

文学部は、そのような歴史と伝統とを背負いながら、国際化・高度情報化、生涯教育機能の強化、学際化への対応、学術研究の高度化といった近年の要請に応えるため、日本文化の研究を深化させると同時に、異文化との比較・相対化を通じて日本文化を世界へ創造的に発信することができる人材の育成を目指しています。

文学部は、日本文学科、中国文学科、外国語文化学科、史学科、哲学科の5学科からなります。

文学部の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

（掲載場所）

國學院大學ホームページ：

トップページ > 教育 > 学部・学科 > 文学部

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/letters>



文学部各学科の教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

（掲載場所）

國學院大學ホームページ：

トップページ > 教育 > 学部・学科 > 文学部 > 文学部について

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/letters/about>



教育研究上の目的

日本文化の研究を深化させるとともに、異文化との比較・相対化を通して、日本文化を世界へ創造的に発信することのできる人材を育成すること。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

文学部は、日本並びに諸外国の文化を深く理解し、日本文化を世界に発信するための知識と技能を身につけた学生に対して、卒業を認定するとともに、学士課程の学位（文学）を授与します。

文学部の5つの学科（日本文学科・中国文学科・外国語文化学科・史学科・哲学科）は、文学部全体の方針を具体化した卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めています。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

文学部は、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で示した能力と態度を身につけるために、全学的な共通教育プログラムの学修を前提として、5つの学科（日本文学科・中国文学科・外国語文化学科・史学科・哲学科）が専門教育科目を編成し、それらの系統的な履修によって教育目標を達成します。

履修について（全学科共通）

卒業に必要な最低単位数

本学に4年（8学期）以上在学し、所定の単位を修得すれば卒業と認定し、文学部にあつては、学士（文学）の学位が授与される。ただし、1～4年の各年次に1学期以上在学することが必要である。卒業に要する単位数は下表のとおりである。

科目区分	日本文学科・中国文学科・外国語文化学科 史学科・哲学科
共通教育科目	36単位
専門教育科目	64単位
右記①～③の分野から 自由に選択 ^{※1}	① 共通教育科目で36単位を超えた単位 ② 専門教育科目で64単位を超えた単位 ③ 全学オープン科目の単位 24単位 ^{※2}
合計	124単位以上 ^{※3}

※1 自身の学修計画に応じて①～③の分野から自由に選択し、24単位修得すること。

※2 必ずしも①～③の各分野から組合せて充当する必要はなく、特定の分野のみで24単位充当することも可能。

※3 各学科の履修規程に基づいて上表のとおり単位を修得し、合計124単位以上修得すること。

進級条件

進級の時期は各年度の初めとする。進級するには、各年次において1学期以上在学することが必要である。また、2年次から3年次への進級には2年次終了までに3学期以上在学し、卒業に要する単位で次の条件を満たしていなければならない。

日本文学科

共通教育プログラムの言語スキル科目群で「英語Ⅰ～Ⅴ」6科目12単位のうち4科目8単位、学科基礎科目7科目14単位のうち6科目12単位を含む34単位以上を修得すること。

中国文学科

共通教育プログラムの言語スキル科目群で「中国語Ⅰ～Ⅳ」4科目8単位のうち2科目4単位、1年次に開講する必修の学科基幹科目7科目14単位のうち2科目4単位を含む34単位以上を修得すること。

外国語文化学科

共通教育プログラムの言語スキル科目群で「英語Ⅰ～Ⅴ」2科目4単位、外国語基礎演習の必修8科目16単位及び選択必修「ドイツ語演習ⅠA～ⅡB」「フランス語演習ⅠA～ⅡB」「中国語演習ⅠA～ⅡB」4科目8単位の計12科目24単位のうち4科目8単位を含む34単位以上を修得すること。

史学科

共通教育プログラムの言語スキル科目群で「英語Ⅰ～Ⅴ」6科目12単位のうち3科目6単位を含む34単位以上を修得すること。

哲学科

共通教育プログラムの言語スキル科目群で「英語Ⅰ～Ⅴ」4科目8単位のうち2科目4単位を含む34単位以上を修得すること。

年次別履修単位制限（CAP制）

年次ごとに登録できる単位数が制限されているので、年次別の枠を超えて履修することはできない（9ページ参照）。

1. 日本文学科

日本文学科には、日本文学専攻・日本語学専攻・伝承文学専攻があり、専攻によって専門教育科目の履修方法が異なる。いずれかの専攻を選択し、履修規程に基づいて単位を修得する。また、各専攻に属しながら、日本語教育・国語教育・書道・表現文化の各領域科目も適宜履修できる。

日本文学科の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > 教育 > 学部・学科 > 文学部 > 日本文学科

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/letters/dojl>



各専攻について

日本文学専攻

古代から近現代にいたる各時代の主要な作品・作家に触れて、全体の流れをつかむとともに、個々の作品について集中的に研究することにより、日本人の心情や生活の意義・特質を明らかにすることを目標とする。

日本語学専攻

日本語の、古代から現代にわたる音韻・音声・文字・語彙・文法・方言などについて多様な形態で伝わる文献資料はもとより現代日本語の動態に至るまで広く対象として研究し、日本語の有する法則的事実を科学的に明らかにすることを目標とする。

伝承文学専攻

日本文化の総合的・体系的理解には、文字表現に加え、言葉や行為、感覚、さらに造形等によって受け継がれてきた伝承文化への認識が必要となる。具体的には、昔話や伝説、儀礼、芸能、衣食住など多岐にわたる文化で、これらの実態や特質について民俗学や口承文芸学、民俗芸能学等の視点から学修、究明することを目標とする。

各領域について

上記3専攻とは別に、以下4つの領域科目を設定している。3専攻のいずれかに属しつつ、目的に応じて以下の領域科目を履修することができる。

日本語教育学領域

日本語学習者の多様なニーズに応じた支援のための教授法を教材・学習者・言語にわたって幅広く研究する。さらに、日本語教育実習を通じて日本語教師としての資質と能力を養うことを目標とする。専門的に日本語教育学を学ぶことで、大学院の高度日本語教育コースへと展開させることが可能となる。

国語教育学領域

国語教育学の理論と実践及び教育方法学の基礎を学ぶことで、教職課程の学修を一層深めるとともに、大学院の高度国語教育コースへの接続と展開を可能にする。

書道領域

楷書・行書・草書・隸書・篆書（篆刻を含む）・仮名などの実技実習と、書道史・書論などの書学書道史学の視点からの学修を通して、書の世界を実践的に学ぶとともに、体系ある学問としての書道を探究してゆくことを目標とする。

表現文化領域

散文表現、韻文表現、文字表現、身体表現などの表現方法を学修対象として、表現の可能性を追究してゆくことを目的とする。表現のありようを実践的に学ぶことによって、表現や創作また出版・放送などに携わることのできる人材の育成を目指す。

卒業論文について

卒業論文の指導教員は、3年次前期に学科が定める手続きを経て確定する。その後、各教員の指導に従って作成に向けて準備、作業を行い、4年次の12月に提出する。

カリキュラムの構成と履修方法

1. 専門教育科目の専攻が分かれるのは2年次からであるが、専攻の選択は1年次後期に行い、2年次前期の履修登録の際に登録を行う。原則として、それ以降の専攻の変更は認めない。ただし、3年次前期の履修登録時において変更の希望があった場合には、教務委員が検討する。
2. 専攻外演習科目である「日本語教育学演習ⅠA～ⅡB」「言語学演習Ⅰ・Ⅱ」「国語教育学演習Ⅰ・Ⅱ」「書道演習Ⅰ・Ⅱ」「表現文化演習Ⅰ・Ⅱ」を修得した場合、その修得単位は各自の選択した専攻の専攻演習科目の単位として認定される。
3. 「日本文学演習Ⅰ～Ⅲ」「日本語学演習Ⅰ～Ⅲ」「伝承文学演習Ⅰ～Ⅳ」「日本語教育学演習Ⅰ～Ⅱ」「書道実習Ⅰ～Ⅳ」については、A・Bが連動している。従って原則として、A・Bは同一指導教員の授業を、同一の年度内に履修することとする。「基礎日本古典語」「書道」「言語学演習」「国語教育学演習」「書道演習」「表現文化演習」については、Ⅰ・Ⅱが連動している。従って原則として、Ⅰ・Ⅱは同一指導教員の授業を、同一の年度内に履修することとする。
4. 各自が選択した専攻の演習を4年次に2科目以上（上記3のA+B、若しくはⅠ+Ⅱ以上）履修のうえ、単位を修得しなければならない。ただし、上記2に従って、専攻外演習科目のいずれかの科目で代替することができる。

科目区分		履修方法	単位数
学科基幹科目	学科基礎科目	必修	14単位
	専攻基礎科目	選択必修	12単位以上
	専門基礎科目	選択	
	専攻演習科目	選択必修	12単位以上
	専攻外演習科目	選択	
卒業論文		必修	8 単位
展開科目	選択Ⅰ～Ⅶ類	選択必修	18単位以上
関連科目			
合計		64単位以上	

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法
				1	2	3	4	
学科 基礎科目	日本文学概説Ⅰ	半期	2	○				14単位必修
	日本文学概説Ⅱ	半期	2	○				
	日本語学概説Ⅰ	半期	2	○				
	日本語学概説Ⅱ	半期	2	○				
	伝承文学概説Ⅰ	半期	2	○				
	伝承文学概説Ⅱ	半期	2	○				
	漢文学概説	半期	2	○				
	日本文学講読Ⅰ	半期	2		○			日本文学専攻選択者は「日本文学講読Ⅰ・Ⅱ」 日本語学専攻選択者は「日本語学講読Ⅰ・Ⅱ」 伝承文学専攻選択者は「伝承文学講読Ⅰ・Ⅱ」 及び、他の「講読Ⅰ・Ⅱ」の組合せを2組4科目 計3組6科目12単位以上選択必修 超過単位は展開科目へ算入
	日本文学講読Ⅱ	半期	2		○			
	日本語学講読Ⅰ	半期	2		○			
	日本語学講読Ⅱ	半期	2		○			
	伝承文学講読Ⅰ	半期	2		○			
	伝承文学講読Ⅱ	半期	2		○			
	漢文学講読Ⅰ	半期	2		○			
	漢文学講読Ⅱ	半期	2		○			
	基礎日本古典語Ⅰ	半期	2		○			「基礎日本古典語」「書道」Ⅰ・Ⅱは、 原則として同一教員の授業を継続して履修すること。 修得単位は展開科目へ算入
	基礎日本古典語Ⅱ	半期	2		○			
	基礎漢文学	半期	2	○				
	影印講読	半期	2	○				
	書道Ⅰ	半期	2	○				
	書道Ⅱ	半期	2	○				
	書道概論	半期	2	○				
	日本文学演習ⅠA	半期	2		○			日本文学専攻選択者は「日本文学演習ⅠA～ⅢB」 日本語学専攻選択者は「日本語学演習ⅠA～ⅢB」 伝承文学専攻選択者は「伝承文学演習ⅠA～ⅣB」 の中から8単位を含め、計12単位以上選択必修 超過単位は展開科目へ算入 なお、選択した専攻の演習を4年次に2科目以上履修のうえ、単位を修得しなければならないが、自分の選択した専攻以外の演習科目や専攻外演習科目のいずれかの科目で代替することができる。 各演習のA・Bの組み合わせについては、原則として同一の教員の授業を継続して履修すること。
	日本文学演習ⅠB	半期	2		○			
	日本文学演習ⅡA	半期	2			○		
	日本文学演習ⅡB	半期	2			○		
	日本文学演習ⅢA	半期	2			○		
	日本文学演習ⅢB	半期	2			○		
	日本語学演習ⅠA	半期	2		○			
	日本語学演習ⅠB	半期	2		○			
	日本語学演習ⅡA	半期	2			○		
	日本語学演習ⅡB	半期	2			○		
	日本語学演習ⅢA	半期	2			○		
	日本語学演習ⅢB	半期	2			○		
	伝承文学演習ⅠA	半期	2		○			
	伝承文学演習ⅠB	半期	2		○			
	伝承文学演習ⅡA	半期	2			○		
	伝承文学演習ⅡB	半期	2			○		
	伝承文学演習ⅢA	半期	2			○		
	伝承文学演習ⅢB	半期	2			○		
	伝承文学演習ⅣA	半期	2			○		
	伝承文学演習ⅣB	半期	2			○		
	日本語教育学演習ⅠA	半期	2			○		修得単位は、選択した専攻の専攻演習科目へ算入（超過単位は展開科目へ算入） 「日本語教育学演習Ⅰ・Ⅱ」のA・Bの組み合わせについては、原則として同一教員の授業を履修すること。他の演習のⅠ・Ⅱの組み合わせについては、原則として同一科目を継続して履修すること。
	日本語教育学演習ⅠB	半期	2			○		
	日本語教育学演習ⅡA	半期	2			○		
	日本語教育学演習ⅡB	半期	2			○		
	言語学演習Ⅰ	半期	2			○		
	言語学演習Ⅱ	半期	2			○		
	国語教育学演習Ⅰ	半期	2			○		
	国語教育学演習Ⅱ	半期	2			○		
	書道演習Ⅰ	半期	2			○		
	書道演習Ⅱ	半期	2			○		
	表現文化演習Ⅰ	半期	2			○		
	表現文化演習Ⅱ	半期	2			○		
卒業論文		通年	8			○		必修

(次ページに続く)

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法
				1	2	3	4	
展開科目	日本文学 科目群 選択Ⅰ類	日本文学史Ⅰ	半期	2		○		展開科目（選択Ⅰ～Ⅶ類）と関連科目の中から 18単位以上選択必修
		日本文学史Ⅱ	半期	2		○		
		日本時代文学史Ⅰ	半期	2			○	
		日本時代文学史Ⅱ	半期	2			○	
		日本古典芸能文化論Ⅰ	半期	2			○	
		日本古典芸能文化論Ⅱ	半期	2			○	
		東アジア芸能文化論Ⅰ	半期	2			○	
		東アジア芸能文化論Ⅱ	半期	2			○	
		日本上代文学研究Ⅰ	半期	2		○		
		日本上代文学研究Ⅱ	半期	2		○		
		日本中古文学研究Ⅰ	半期	2		○		
		日本中古文学研究Ⅱ	半期	2		○		
		日本中世文学研究Ⅰ	半期	2			○	
		日本中世文学研究Ⅱ	半期	2			○	
		日本近世文学研究Ⅰ	半期	2			○	
		日本近世文学研究Ⅱ	半期	2			○	
		日本近現代文学研究Ⅰ	半期	2		○		
		日本近現代文学研究Ⅱ	半期	2		○		
		日本近現代文学研究Ⅲ	半期	2			○	
		日本近現代文学研究Ⅳ	半期	2			○	
		日本文学各論Ⅰ	半期	2			○	
		日本文学各論Ⅱ	半期	2			○	
		日本古典文学特殊研究Ⅰ	半期	2			○	
		日本古典文学特殊研究Ⅱ	半期	2			○	
		日本近現代文学特殊研究Ⅰ	半期	2			○	
		日本近現代文学特殊研究Ⅱ	半期	2			○	
	日本語学 科目群 選択Ⅱ類	東アジア比較文学Ⅰ	半期	2			○	
		東アジア比較文学Ⅱ	半期	2			○	
		文献情報処理Ⅰ	半期	2			○	
		文献情報処理Ⅱ	半期	2			○	
		日本語史Ⅰ	半期	2		○		
		日本語史Ⅱ	半期	2		○		
		日本語学史Ⅰ	半期	2			○	
		日本語学史Ⅱ	半期	2			○	
		言語学概論Ⅰ	半期	2		○		
		言語学概論Ⅱ	半期	2		○		
		日本語音声学Ⅰ	半期	2			○	
		日本語音声学Ⅱ	半期	2			○	
		古代日本語文法Ⅰ	半期	2			○	
		古代日本語文法Ⅱ	半期	2			○	
		現代日本語文法Ⅰ	半期	2		○		
		現代日本語文法Ⅱ	半期	2		○		
		現代日本語研究Ⅰ	半期	2			○	
		現代日本語研究Ⅱ	半期	2			○	
		日本語学各論Ⅰ	半期	2			○	
		日本語学各論Ⅱ	半期	2			○	
		言語学特殊研究Ⅰ	半期	2			○	
		言語学特殊研究Ⅱ	半期	2			○	

(次ページに続く)

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法
				1	2	3	4	
展開科目	民俗学史Ⅰ	半期	2		○			展開科目（選択Ⅰ～Ⅶ類）と関連科目の中から 18単位以上選択必修
	民俗学史Ⅱ	半期	2		○			
	伝承文学史Ⅰ	半期	2			○		
	伝承文学史Ⅱ	半期	2			○		
	日本民俗学Ⅰ	半期	2			○		
	日本民俗学Ⅱ	半期	2			○		
	口承文芸研究Ⅰ	半期	2			○		
	口承文芸研究Ⅱ	半期	2			○		
	儀礼文化論Ⅰ	半期	2			○		
	儀礼文化論Ⅱ	半期	2			○		
	伝承文学研究Ⅰ	半期	2		○			
	伝承文学研究Ⅱ	半期	2		○			
	伝承文化研究Ⅰ	半期	2		○			
	伝承文化研究Ⅱ	半期	2		○			
	民俗文化財論Ⅰ	半期	2				○	
	民俗文化財論Ⅱ	半期	2				○	
	民俗芸能論Ⅰ	半期	2				○	
	民俗芸能論Ⅱ	半期	2				○	
	比較口承文芸論Ⅰ	半期	2				○	
	比較口承文芸論Ⅱ	半期	2				○	
	伝承文学思想	半期	2				○	
	民俗研究思想	半期	2				○	
	現代文化論	半期	2				○	
	映像文化論	半期	2				○	
	比較民俗研究Ⅰ	半期	2				○	
	比較民俗研究Ⅱ	半期	2				○	
	日本語教授法Ⅰ	半期	2		○			
	日本語教授法Ⅱ	半期	2		○			
	日本語教育研究Ⅰ	半期	2			○		
	日本語教育研究Ⅱ	半期	2			○		
	日本語教育実習Ⅰ	集中	1			○		
	日本語教育実習Ⅱ	集中	2			○		
	国語教育学概論Ⅰ	半期	2			○		
	国語教育学概論Ⅱ	半期	2			○		
	国語教育実践研究Ⅰ	半期	2			○		
	国語教育実践研究Ⅱ	半期	2			○		
	古典教育研究Ⅰ	半期	2			○		
	古典教育研究Ⅱ	半期	2			○		
	日本書道史Ⅰ	半期	2			○		
	日本書道史Ⅱ	半期	2			○		
	中国書道史Ⅰ	半期	2		○			
	中国書道史Ⅱ	半期	2		○			
	書道実習ⅠA	半期	1		○			
	書道実習ⅠB	半期	1		○			
	書道実習ⅡA	半期	1			○		
	書道実習ⅡB	半期	1			○		
	書道実習ⅢA	半期	1				○	
	書道実習ⅢB	半期	1				○	
	書道実習ⅣA	半期	1				○	
	書道実習ⅣB	半期	1				○	
	書論研究	半期	2			○		
	古筆学	半期	2			○		
	篆書法篆刻学	半期	2			○		
	隸書法	半期	2			○		

（次ページに続く）

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法
				1	2	3	4	
展開科目 表現文化領域 選択Ⅶ類	出版文化論Ⅰ	半期	2			○		展開科目（選択Ⅰ～Ⅶ類）と関連科目の中から 18単位以上選択必修
	出版文化論Ⅱ	半期	2			○		
	放送文化論Ⅰ	半期	2			○		
	放送文化論Ⅱ	半期	2			○		
	表現文化論Ⅰ	半期	2		○			
	表現文化論Ⅱ	半期	2		○			
	身体表現文化論Ⅰ	半期	2			○		
	身体表現文化論Ⅱ	半期	2			○		
	文字表現文化論Ⅰ	半期	2				○	
	文字表現文化論Ⅱ	半期	2				○	
	書誌学Ⅰ	半期	2				○	
	書誌学Ⅱ	半期	2				○	
関連科目	史料講読Ⅰ	半期	2			○		修得単位は展開科目へ算入
	史料講読Ⅱ	半期	2			○		
	中国古典と日本	半期	2			○		
	中国文学史	半期	2		○			
	中国古典読法基礎	半期	2	○				
	中国文学と感性Ⅰ	半期	2			○		
	中国文学と感性Ⅱ	半期	2			○		
	中国文学と表現Ⅰ	半期	2			○		
	中国文学と表現Ⅱ	半期	2			○		
	中国文学と時代Ⅰ	半期	2			○		
	中国文学と時代Ⅱ	半期	2			○		
	儒学と国学	半期	2			○		

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

2. 中国文学科

古代から近現代におよぶ中国文学、及び関連する諸分野を学ぶ。悠久の歴史をもつ中国文学は、多彩かつ多様なジャンルがあり、魅力的な作品に富む。また、中国文学は言語をはじめとして、思想・宗教・民俗文化・歴史などの諸領域と密接に関連し、その上に開いた精華である。それらの様々な文化事象をあわせ学び、中国文学の作品を通して読解力・鑑賞力を涵養し、その特質を明らかにすることを目標とする。

1 年次においては、入門期の知識を概括的に幅広く学び、今後の学修に向けて、展開の基礎を培う。

2 年次以降においては、各自が学修の重点をどこに置くのかにより、4 プログラムから1 プログラムを選択する。

中国文学科の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > 教育 > 学部・学科 > 文学部 > 中国文学科

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/letters/doc1>



各プログラムについて

文学研究プログラム

古代から近現代におよぶ中国文学を主たる対象とし、その作品の解釈・鑑賞を通して中国文学の特質を学ぶことに重点を置く。

思想総合プログラム

中国の思想を主たる対象とし、歴史・芸術にも知識を広げ、その思想の特質を学ぶことに重点を置く。

中国語教養プログラム

中国語を基礎から学び応用力を身につけることに重点を置く。2 年次前期には、台北・国立台湾師範大学へのセメスター留学に参加し、中国語や文化を学び中国語運用能力を高める。

中国民俗文化プログラム

中国文学を核としながら東アジア世界に広がる基層文化をも視野に入れ、中国の民俗文化を学ぶ。

プログラム選択制について

プログラムの選択は、2 年次前期の履修登録の際に行い、その後、各プログラムに分かれる。登録後のプログラム変更は原則として認められない。

3 年次において、特別な事情によりプログラムを変更する場合には、学科の教務委員との面談の後、学科で検討する。

セメスター留学について

中国語教養プログラムを選択した学生は、上海・復旦大学若しくは台北・国立台湾師範大学へのセメスター留学が必修となっている。セメスター留学については、国際交流課による説明会が開催される。必ず参加すること。

卒業論文・中国学応用演習について

卒業論文は必修である。卒業論文の履修に関しては、3 年次前期の「卒業論文Ⅰ」にて説明がある。「卒業論文Ⅱ」は3 年次後期に登録を行い、その登録は4 年次まで1 年半にわたり継続する。「卒業論文Ⅱ」の登録単位は、4 年次の履修単位制限に含まれる。

なお、中国学応用演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、原則として、卒業論文の指導教員のものを履修することになる。

カリキュラムの構成と履修方法

科目区分		履修方法	文学研究 プログラム	思想総合 プログラム	中国語教養 プログラム	中国民俗 プログラム
学 科 基 幹 科 目	学科導入科目※ ¹	選択				
		必修	4単位	4単位	4単位	4単位
		選択必修	2単位	2単位	2単位	2単位
	学科基礎科目	必修	14単位	14単位	14単位	14単位
		選択必修	2単位	2単位	2単位	2単位
	演習・卒業論文	必修	22単位	22単位	22単位	22単位
専 修 科 目	プログラム導入科目	選択				
	プログラム展開科目※ ²	選択必修	20単位以上	20単位以上	20単位以上	20単位以上
関連科目		選択				
合計			64単位以上			

※¹ 学修基礎科目のうち「中国古典読法Ⅰ・Ⅱ」は必修、「中国古典読法基礎」は選択である。

※² プログラム展開科目はプログラムによって履修条件が異なる。

科目区分		授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法
					1	2	3	4	
学科基礎科目	学科導入科目	中国古典読法基礎	半期	2	○				選択
		中国古典読法Ⅰ	半期	2	○				4単位必修
		中国古典読法Ⅱ	半期	2	○				
		中国思想入門	半期	2	○				2単位選択必修
		中国民俗文化入門	半期	2	○				
	学科基礎科目	中国文学入門	半期	2	○				14単位必修
		中国語基礎演習	前期集中	2	○				
		中国語演習	後期集中	2	○				
		漢字情報処理Ⅰ	半期	2	○				
		漢字情報処理Ⅱ	半期	2		○			
		中国文学史	半期	2		○			
		中国古典と日本	半期	2			○		
		中国古典詩講読Ⅰ	半期	2		○			2単位選択必修
		中国古典詩講読Ⅱ	半期	2		○			
	演習・卒業論文	論語演習	半期	2	○				22単位必修 原則として、「中国学応用演習Ⅰ～Ⅲ」は 同一指導教員の授業を履修すること
		詩経演習	半期	2		○			
		楚辞演習	半期	2			○		
		文選演習	半期	2			○		
		中国学応用演習Ⅰ	半期	2			○		
		中国学応用演習Ⅱ	半期	2				○	
		中国学応用演習Ⅲ	半期	2				○	
		卒業論文Ⅰ	前期	2			○		
		卒業論文Ⅱ	3セメスタ	6				○	
プログラム専修科目	プログラム導入科目	中国古典の世界	半期	2	○				選択
		中国「君子」の世界	半期	2	○				
		中国文化の世界	半期	2	○				
		現代中国の世界	半期	2	○				
	プログラム展開科目	中国文学と感性Ⅰ	半期	2			○		文学研究プログラム選択者は 5科目10単位以上選択必修
		中国文学と感性Ⅱ	半期	2			○		
		中国文学と感性Ⅲ	半期	2			○		
		中国文学と表現Ⅰ	半期	2			○		
		中国文学と表現Ⅱ	半期	2			○		
		中国文学と表現Ⅲ	半期	2			○		
		中国文学と時代Ⅰ	半期	2			○		思想総合プログラム選択者は 5科目10単位以上選択必修
		中国文学と時代Ⅱ	半期	2			○		
		中国文学と時代Ⅲ	半期	2			○		
		中国思想と学術Ⅰ	半期	2			○		
		中国思想と学術Ⅱ	半期	2			○		
		中国思想と学術Ⅲ	半期	2			○		
		中国思想と時代Ⅰ	半期	2			○		
		中国思想と時代Ⅱ	半期	2			○		
		中国思想と時代Ⅲ	半期	2			○		
		中国の思想と伝統Ⅰ	半期	2			○		中国語教養プログラム選択者は 教養中国語Ⅰ、実践中国語Ⅰ～Ⅴのうち、 3科目6単位を含む 6科目12単位以上選択必修
		中国の思想と伝統Ⅱ	半期	2			○		
		中国の思想と伝統Ⅲ	半期	2			○		
		教養中国語Ⅰ	半期	2	○				
		教養中国語Ⅱ	半期	2			○		
		教養中国語Ⅲ	半期	2			○		
		応用中国語Ⅰ	半期	2			○		
		応用中国語Ⅱ	半期	2			○		
		応用中国語Ⅲ	半期	2			○		
		応用中国語Ⅳ	半期	2			○		
		実践中国語Ⅰ◆	半期	2		○			
		実践中国語Ⅱ◆	半期	2		○			
		実践中国語Ⅲ◆	半期	2		○			
		実践中国語Ⅳ◆	半期	2		○			
		実践中国語Ⅴ◆	半期	2		○			

(次ページに続く)

科目区分		授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法 備考	
					1	2	3	4		
プログラム専修科目	プログラム展開科目	中国古典と民俗文化Ⅰ	半期	2		○			中国民俗文化プログラム選択者は 5科目10単位以上選択必修	計10科目 20単位選択必修
		中国古典と民俗文化Ⅱ	半期	2		○				
		中国古典と民俗文化Ⅲ	半期	2		○				
		中国民俗文化と心Ⅰ	半期	2		○				
		中国民俗文化と心Ⅱ	半期	2		○				
		中国民俗文化と心Ⅲ	半期	2		○				
		中国民俗文化と形Ⅰ	半期	2		○				
		中国民俗文化と形Ⅱ	半期	2		○				
		中国民俗文化と形Ⅲ	半期	2		○				
		東洋史入門	半期	2			○			
		儒学と国学	半期	2			○			
		日本文学概論Ⅰ	半期	2	○					
		日本文学概論Ⅱ	半期	2	○					
		日本語学概論Ⅰ	半期	2	○					
		日本語学概論Ⅱ	半期	2	○					
関連科目		日本文学講読Ⅰ	半期	2		○				
		日本文学講読Ⅱ	半期	2		○				
		日本文学史Ⅰ	半期	2		○				
		日本文学史Ⅱ	半期	2		○				
		日本語史Ⅰ	半期	2		○				
		日本語史Ⅱ	半期	2		○				
		伝承文学講読Ⅰ	半期	2		○				
		伝承文学講読Ⅱ	半期	2		○				
		日本語教授法Ⅰ	半期	2		○				
		日本語教授法Ⅱ	半期	2		○				
		書道Ⅰ	半期	2	○					
		書道Ⅱ	半期	2	○					
		書道実習ⅠA	半期	1		○				
		書道実習ⅠB	半期	1		○				
		書道実習ⅡA	半期	1			○			
		書道実習ⅡB	半期	1			○			
		書道実習ⅢA	半期	1			○			
		書道実習ⅢB	半期	1			○			
		書道実習ⅣA	半期	1				○		
		書道実習ⅣB	半期	1				○		
		古典教育研究Ⅰ	半期	2			○			
		古典教育研究Ⅱ	半期	2			○			
		国語教育学概論Ⅰ	半期	2			○			
		国語教育学概論Ⅱ	半期	2			○			
		国語教育実践研究Ⅰ	半期	2			○			
		国語教育実践研究Ⅱ	半期	2			○			

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

◆「実践中国語Ⅰ～Ⅴ」はセメスター留学読替予定科目のため、本学では開講しない。

3. 外国語文化学科

外国語文化学科には、「外国語コミュニケーションコース」と「外国文化コース」があり、それぞれのコースによって専門教育科目の履修方法が異なる。所属学生は、いずれかのコースを選択し、履修規程に基づいて単位を修得しなければならない。

外国語文化学科の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > 教育 > 学部・学科 > 文学部 > 外国語文化学科

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/letters/doflacs>



各コースについて

外国語コミュニケーションコース

必修外国語（英語）及び選択必修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語）のコミュニケーション能力を徹底的に養い、主体的な異文化コミュニケーションを実践できる人材の育成に重点が置かれる。

外国文化コース

学際的・総合的に外国文化を学び、問題の所在を多角的に捉えて論理的に分析解決する能力を備え、国際社会において主体的に活躍できる人材の育成に重点が置かれる。

コースの選択について

コースの選択は、2年次の前期履修登録時に行う。なお、3年次の前期履修登録時に、教務委員の了承を得ることにより、コースを変更することができる。それ以降の変更は、原則として認めない。

卒業論文について

卒業論文の指導教員は、3年次前期に、学科が定める手続きを経て決定する。卒業論文作成にあたっては、3・4年次に、各教員が設定する卒業論文指導用オフィスアワーの時間に十分な指導を受けること。

カリキュラムの構成と履修方法

科目区分		コース	
		外国語コミュニケーション	外国文化
専門基礎科目	導入科目	2単位必修	2単位必修
	外国語基礎演習※	16単位必修	16単位必修
		20単位以上選択必修	16単位以上選択必修
	文化基礎演習		4単位必修
専門応用科目	外国語演習	8単位以上選択必修	8単位以上選択必修
発展科目	選択Ⅰ類	4単位以上選択必修	2単位以上選択必修
	選択Ⅱ類	2単位以上選択必修	4単位以上選択必修
演習・卒業論文		12単位必修	12単位必修
合計		64単位以上	

※ 「ドイツ語演習ⅠA～ⅡB」「フランス語演習ⅠA～ⅡB」「中国語演習ⅠA～ⅡB」の履修は、共通教育プログラムの言語スキル科目群「外国語」で選択必修科目として選択した外国語と同一外国語の演習とする。

科目 区分	授 業 科 目	開講	単位	開講学年				履修方法		備考
				1	2	3	4	外国語コミュニケーション	外国文化	
専 門 基 礎 科 目	導入科目	外国語文化導入演習	半期	2	○			2 単位必修	2 単位必修	() 内のテーマが異なれば同一の授業科目でも複数履修可 (ただし計4 単位まで)
		外国文化入門	半期	2	○					
	外国語基礎演習	英語演習ⅠA	半期	2	○			16 単位必修	16 単位必修	
		英語演習ⅠB	半期	2	○					
		英語演習ⅡA	半期	2		○				
		英語演習ⅡB	半期	2		○				
		英語文献演習ⅠA	半期	2	○					
		英語文献演習ⅠB	半期	2	○					
		英語文献演習ⅡA	半期	2		○				
		英語文献演習ⅡB	半期	2		○				
		ドイツ語演習ⅠA	半期	2	○			共通教育プログラムの言語スキル科目群「外国語」で選択必修科目として選択した外国語と同一外国語の演習	共通教育プログラムの言語スキル科目群「外国語」で選択必修科目として選択した外国語と同一外国語の演習	
		ドイツ語演習ⅠB	半期	2	○					
		ドイツ語演習ⅡA	半期	2		○				
		ドイツ語演習ⅡB	半期	2		○				
		フランス語演習ⅠA	半期	2	○					
		フランス語演習ⅠB	半期	2	○					
		フランス語演習ⅡA	半期	2		○				
		フランス語演習ⅡB	半期	2		○				
		中国語演習ⅠA	半期	2	○			8 単位選択必修	8 単位選択必修	
		中国語演習ⅠB	半期	2	○					
		中国語演習ⅡA	半期	2		○				
		中国語演習ⅡB	半期	2		○				
		英文法A	半期	2	○					
		英文法B	半期	2	○					
		英語表現A	半期	2		○		12 単位以上選択必修	8 単位以上選択必修	
		英語表現B	半期	2		○				
		ドイツ語表現A	半期	2		○				ドイツ語学習歴 (1 年程度) のある者のみ履修可
		ドイツ語表現B	半期	2		○				フランス語学習歴 (1 年程度) のある者のみ履修可
		フランス語表現A	半期	2		○				中国語学習歴 (1 年程度) のある者のみ履修可
		フランス語表現B	半期	2		○				
		中国語表現A	半期	2		○				
		中国語表現B	半期	2		○				
	文化基礎	文化基礎演習A	半期	2	○			4 単位必修		
		文化基礎演習B	半期	2	○					
専 門 応 用 科 目	外国語演習	英語コミュニケーション演習A	半期	2			○	4 単位以上選択必修	4 単位以上選択必修	
		英語コミュニケーション演習B	半期	2			○			
		ドイツ語コミュニケーション演習A	半期	2			○			ドイツ語学習歴 (2 年程度) のある者のみ履修可
		ドイツ語コミュニケーション演習B	半期	2			○			フランス語学習歴 (2 年程度) のある者のみ履修可
		フランス語コミュニケーション演習A	半期	2			○			中国語学習歴 (2 年程度) のある者のみ履修可
		フランス語コミュニケーション演習B	半期	2			○			
		中国語コミュニケーション演習A	半期	2			○			
		中国語コミュニケーション演習B	半期	2			○			
		英語展開演習A	半期	2			○	4 単位以上選択必修	4 単位以上選択必修	
		英語展開演習B	半期	2			○			
		ドイツ語展開演習A	半期	2			○			ドイツ語学習歴 (2 年程度) のある者のみ履修可
		ドイツ語展開演習B	半期	2			○			フランス語学習歴 (2 年程度) のある者のみ履修可
		フランス語展開演習A	半期	2			○			中国語学習歴 (2 年程度) のある者のみ履修可
		フランス語展開演習B	半期	2			○			
		中国語展開演習A	半期	2			○			
		中国語展開演習B	半期	2			○			

(次ページに続く)

科目 区分		授 業 科 目	開講	単位	開講学年				履修方法		備考
					1	2	3	4	外国語コミュニ ケーション	外国文化	
発 展 科 目	選 択 Ⅰ 類 （言語系）	英米語概論Ⅰ	半期	2			○	4 単位以上選択必修	2 単位以上選択必修	留学経験（特に英語圏）、英語検定 試験準一級以上等、高度な英語運用 能力のある者のみ履修可	
		英米語概論Ⅱ	半期	2			○				
		ドイツ語研究Ⅰ	半期	2			○				
		ドイツ語研究Ⅱ	半期	2			○				
		フランス語研究Ⅰ	半期	2			○				
		フランス語研究Ⅱ	半期	2			○				
		中国語研究Ⅰ	半期	2			○				
		中国語研究Ⅱ	半期	2			○				
		日本語学Ⅰ	半期	2			○				
		日本語学Ⅱ	半期	2			○				
		ビジネス英語Ⅰ	半期	2			○				
		ビジネス英語Ⅱ	半期	2			○				
		Select EnglishⅠ	半期	2			○				
		Select EnglishⅡ	半期	2			○				
	選 択 Ⅱ 類 （文化系）	比較文化論Ⅰ	半期	2		○		2 単位以上選択必修	4 単位以上選択必修		
		比較文化論Ⅱ	半期	2		○					
		英米地域文化論Ⅰ	半期	2		○					
		英米地域文化論Ⅱ	半期	2		○					
		ヨーロッパ地域文化論Ⅰ	半期	2		○					
		ヨーロッパ地域文化論Ⅱ	半期	2		○					
		中国地域文化論Ⅰ	半期	2		○					
		中国地域文化論Ⅱ	半期	2		○					
		外国文学Ⅰ（英）	半期	2			○				
		外国文学Ⅱ（米）	半期	2			○				
		外国文学Ⅲ（独）	半期	2			○				
		外国文学Ⅳ（独）	半期	2			○				
		外国文学Ⅴ（仏）	半期	2			○				
		外国文学Ⅵ（仏）	半期	2			○				
		外国文学Ⅶ（中）	半期	2			○				
		外国文学Ⅷ（中）	半期	2			○				
		情報文化論Ⅰ	半期	2			○				
		情報文化論Ⅱ	半期	2			○				
演 習 ・ 卒 業 論 文	外国語総合演習A	半期	2			○	4 単位必修	4 単位必修			
	外国語総合演習B	半期	2			○					
	文化総合演習A	半期	2			○					
	文化総合演習B	半期	2			○					
	卒業論文	通年	8			○	8 単位必修		8 単位必修		

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

4. 史学科

史学科は、文字資料並びに考古資料・文化遺産・文化景観などの非文字物質資料を駆使して過去の人間社会・文化とその歴史を明らかにし、歴史遺産の継承と活用を通じた社会と文化の豊かな創造を追究するとともに、研究・分析の過程で修養される「歴史的思考」を身につけた、社会に有用な人材を育成することを目的とする。

史学科には「日本史学」「外国史学」「考古学」「地域文化と景観」の4つのコースがあり、それぞれのコースによって専門教育科目の履修方法が異なる。史学科の専門教育の基幹となる2・3・4年次の演習は、きめ細かい指導を徹底するため定員制をとる。また各コースには、将来の進路設計によってStandard Career Program（S-プログラム）とProfessional Career Program（P-プログラム）が用意されており、プログラムごとに履修すべき科目が異なっている。学生は、自分の興味・関心に従っていずれかのコースを選択し、かつ将来どのような職業に就きたいかという観点からどちらかのプログラムを選択し、履修規程に基づいて単位を修得しなければならない。

また、さまざまな言語で書かれた史料や論文の読解に加え、国際的な発信力とコミュニケーション能力を修養することが、これからの史学科学生にとって必須の資質になるとの教学方針から、選択必修科目として第二外国語を課している。

史学科の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

（掲載場所）

國學院大學ホームページ：

トップページ > 教育 > 学部・学科 > 文学部 > 史学科

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/letters/doh>



史学科の4コース

日本史学コース

日本の古代から近現代に至る各時代の史実とその意義を、厳密な史料批判に基づいて研究し、それぞれの時代における政治・社会構造や文化の歴史的特質などを明らかにするための知識や方法論を身につける。

外国史学コース

朝鮮半島から北アフリカ（イスラム時代以後）までの各地域（いわゆる東洋）と、ヨーロッパからアメリカまでの各地域（いわゆる西洋）の歴史を研究対象とし、語学の修得を基礎としてその政治・社会構造や文化の歴史的特質などを明らかにするための知識や方法論を身につける。

考古学コース

考古学の方法論や発掘調査法などの実践的な知識・技術を学び、遺跡や出土遺物などの物質資料から過去の人類文化とその歴史を読み解くための視座と方法を身につける。なお所定の単位を修得することにより、考古調査士資格認定機構による「考古調査士2級」資格を取得できる。

地域文化と景観コース

歴史の痕跡を深く刻み込んだ文化財や絵図・古地図、地名や景観、地域の信仰や芸能などの調査・分析を通じて、風土と歴史の中で培われてきた地域固有の文化を多面的に究明し、地域文化を将来に継承してゆくための知識と方法論を身につける。

2つのプログラム

ここでのいうプログラムとは、上記の4コースとは別に、将来どのような職業に就きたいかという観点から学生自身が選択するカリキュラム群で、両プログラムは卒業に必要な科目に相違はあるものの、両者の間に優劣や難易の別はなく、演習などの授業も両プログラム合同で行われ、いずれも卒業論文が課される。

Standard Career Program (S-プログラム)

特定の時代や地域にとらわれず、歴史学を幅広く学んで人生に活かし、将来は公務員や一般企業への就職を考えている学生のためのカリキュラム群で、歴史学の専門科目のほかに、社会人の素養となる語学や社会科学系科目（法学、経済学など）を数多く履修するプログラムとなっている。このプログラムでも、教員免許・学芸員資格などの取得は可能である。

Professional Career Program (P-プログラム)

大学院への進学、若しくは教職・学芸員など専門職を目指している学生のためのカリキュラム群で、幅広くしっかりと歴史の専門知識を修得できるよう、専門科目の基幹科目・コース別基幹科目・総合科目から52単位以上を履修することになっている。このプログラムでは、教員免許又は学芸員資格の取得を学生に推奨しており、それに適したカリキュラムが組まれている。

コースとプログラムの選択

コースの選択

コースの選択は、2年次の前期履修登録時にK-SMAPYⅡにて行うが、コースの最終的な決定は3年次の前期履修登録時となる。それ以降に変更の希望があった場合は、教務委員及び指導教員との面接によって決定する。なお、卒業論文の作成上、3年次と4年次のコースは同一が望ましい。

プログラムの選択

プログラムの選択は、2年次の前期履修登録時に行い、原則として3年次の前期履修登録時のみ変更可能である。なお、プログラムの選択及び変更手続きは、2年次の前期履修登録時まではK-SMAPYⅡ、それ以降に変更を希望する場合は、教務委員及び指導教員との面接によって決定する。

カリキュラムの構成と履修方法

基幹科目 28単位

史学科共通の基幹科目群で、「史学入門Ⅰ・Ⅱ」「史学導入演習Ⅰ・Ⅱ」「史学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」「史学応用演習Ⅰ・Ⅱ」「演習・卒業論文」がこれに該当する。なお、「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」と「史学応用演習Ⅰ・Ⅱ」は、卒業論文の作成上、同一教員による指導が望ましい。

また「史学導入演習Ⅱ」「史学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」「史学応用演習Ⅰ・Ⅱ」は、シラバスの「授業のテーマ」で示される内容が異なる場合には、教員の許可を得て複数受講することができる（超過単位は展開科目へ算入）。

コース別基幹科目 S-プログラムは8単位以上、P-プログラムは16単位以上

史学科の学修にとって基本となる選択必修科目群である。「概論」科目から自分のコースの2科目4単位以上、「コース」科目からS-プログラムは自身の選択しているコースから2単位を含め合計4単位以上、P-プログラムは自身の選択しているコースから8単位を含め12単位以上を修得しなければならない（超過単位は展開科目へ算入）。

総合科目 8単位以上

史学科における学修の根幹となる史資料の調査・研究にかかる選択必修科目群である。重複履修が可能であり、合計8単位以上を修得しなければならない（超過単位は展開科目へ算入）。

展開科目・関連科目 S-プログラム20単位以上、P-プログラム12単位以上

自由に選択できる選択科目群で、展開科目・関連科目の2つのカテゴリーからなる。展開科目は史学科の専門科目、関連科目は史学科以外の専門科目である。

定員制の演習（ゼミ）

2年次の「史学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3年次の「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「史学応用演習Ⅰ・Ⅱ」は、演習発表や卒業論文中間発表など学生自身による研究発表と討論を中心に進められるため、各ゼミ20人程度の定員制とする。「史学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は1年次の後期、「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」は2年次の後期に開くガイダンスで事前登録を行う。

考古調査士資格について

考古調査士資格とは、遺跡発掘調査にあたる調査士の資格で、全国の大学・研究機関共通の統一的な資格審査機構である「考古調査士資格認定機構」が授与する。本学は同機構に加盟しており、所定の科目を履修し単位修得した学生は、考古調査士資格（2級）を申請・取得できる。

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				考古調査士※		履修方法	備考
				1	2	3	4	科目群	区分		
基幹科目	史学入門Ⅰ	半期	2	○						28単位必修	原則として同一指導教員の授業を履修すること
	史学入門Ⅱ	半期	2	○							
	史学導入演習Ⅰ	半期	2	○							
	史学導入演習Ⅱ	半期	2	○							
	史学基礎演習Ⅰ	半期	2		○						
	史学基礎演習Ⅱ	半期	2		○						
	史学展開演習Ⅰ	半期	2			○		Ⅱ	必修		
	史学展開演習Ⅱ	半期	2			○		Ⅱ	必修		
	史学応用演習Ⅰ	半期	2				○				
	史学応用演習Ⅱ	半期	2				○				
	演習・卒業論文	通年	8			○					
コース別基幹科目	概論科目	日本史概論Ⅰ	半期	2	○					日本史学コース選択者は、「日本史概論Ⅰ・Ⅱ」 外国史学コース選択者は、「東洋史概論Ⅰ・Ⅱ」または「西洋史概論Ⅰ・Ⅱ」 考古学コース選択者は、「考古学概論Ⅰ・Ⅱ」 地域文化と景観コース選択者は、「地域文化と景観概論Ⅰ・Ⅱ」 計4単位以上を選択必修 超過単位は展開科目へ算入	
		日本史概論Ⅱ	半期	2	○						
		東洋史概論Ⅰ	半期	2	○						
		東洋史概論Ⅱ	半期	2	○						
		西洋史概論Ⅰ	半期	2	○						
		西洋史概論Ⅱ	半期	2	○						
		考古学概論Ⅰ	半期	2	○			I	選択		
		考古学概論Ⅱ	半期	2	○						
		地域文化と景観概論Ⅰ	半期	2	○						
		地域文化と景観概論Ⅱ	半期	2	○						
	日本史学コース	日本時代史Ⅰ	半期	2	○						
		日本時代史Ⅱ	半期	2	○						
		日本時代史Ⅲ	半期	2	○						
		日本時代史Ⅳ	半期	2	○						
		日本時代史Ⅴ	半期	2	○						
		日本時代史Ⅵ	半期	2	○						
		日本時代史Ⅶ	半期	2	○						
		日本時代史Ⅷ	半期	2	○						
	外国史学コース	東洋地域史Ⅰ	半期	2	○					S-プログラム選択者は、 選択したコース中の 2単位を含め、 計4単位以上選択必修 P-プログラム選択者は、 選択したコース中の 8単位を含め、 計12単位以上選択必修 超過単位は展開科目へ算入	
		東洋地域史Ⅱ	半期	2	○						
		東洋地域史Ⅲ	半期	2	○						
		東洋地域史Ⅳ	半期	2	○						
		西洋地域史Ⅰ	半期	2	○						
		西洋地域史Ⅱ	半期	2	○						
		西洋地域史Ⅲ	半期	2	○						
		西洋地域史Ⅳ	半期	2	○						
	考古学コース	考古学各論Ⅰ	半期	2	○			Ⅲ	選択		
		考古学各論Ⅱ	半期	2	○						
		考古学各論Ⅲ	半期	2	○			Ⅲ	選択		
		考古学各論Ⅳ	半期	2	○						
		考古学各論Ⅴ	半期	2	○			Ⅲ	選択		
		考古学各論Ⅵ	半期	2	○						
		考古学各論Ⅶ	半期	2	○			Ⅲ	選択		
		考古学各論Ⅷ	半期	2	○						
	地域文化と景観コース	地域文化各論Ⅰ	半期	2	○						
		地域文化各論Ⅱ	半期	2	○						
		地域文化各論Ⅲ	半期	2	○						
		地域文化各論Ⅳ	半期	2	○						
	文化景観コース	文化景観各論Ⅰ	半期	2	○						
		文化景観各論Ⅱ	半期	2	○						

(次ページに続く)

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				考古調査士※		履修方法	備考
				1	2	3	4	科目群	区分		
総合科目	史料講読Ⅰ	半期	2			○				計8単位以上選択必修 ※超過単位は展開科目に算入。	重複履修可能
	史料講読Ⅱ	半期	2			○					
	外書講読Ⅰ	半期	2			○					
	外書講読Ⅱ	半期	2			○					
	考古学調査法Ⅰ	半期	2			○		Ⅳ	選択		
	考古学調査法Ⅱ	半期	2			○		Ⅳ	必修		
	考古学実習Ⅰ	集中	1			○		Ⅳ	必修		
	考古学実習Ⅱ	集中	1			○		Ⅳ	必修		
	地域・景観調査法Ⅰ	半期	2			○					
	地域・景観調査法Ⅱ	半期	2			○					
	史学専門講義(日本史)	半期	2			○					
	史学専門講義(東洋史)	半期	2			○					
	史学専門講義(西洋史)	半期	2			○					
	史学専門講義(考古学)	半期	2			○					
展開科目	史学専門講義(地域文化と景観)	半期	2			○					
	地域からみた日本の歴史Ⅰ	半期	2	○						S-プログラム選択者は、 展開科目・関連科目から 計20単位以上選択必修 P-プログラム選択者は 展開科目・関連科目から 計12単位以上選択必修	
	地域からみた日本の歴史Ⅱ	半期	2	○							
	地域からみた日本の歴史Ⅲ	半期	2	○							
	地域からみた日本の歴史Ⅳ	半期	2	○							
	東アジア史Ⅰ	半期	2	○							
	東アジア史Ⅱ	半期	2	○							
	江戸東京の歴史	半期	2	○							
	渋谷の歴史	半期	2	○							
	有職故実Ⅰ	半期	2		○						
	有職故実Ⅱ	半期	2		○						
	史学情報処理 初級	半期	2	○							
	史学情報処理 中級	半期	2		○						
	史学情報処理 上級	半期	2		○						
	古文書学Ⅰ	半期	2		○						
	古文書学Ⅱ	半期	2		○						
	史料管理・保存論Ⅰ	半期	2		○						
	史料管理・保存論Ⅱ	半期	2		○						
	文化財行政論	半期	2		○			V	選択		
	考古科学	半期	2		○			VI	選択		
	文化財科学	半期	2		○						
	地域文化資源論	半期	2		○						
	地域文化財資料論	半期	2		○						
	絵図古地図研究	半期	2		○						
	環境史・災害史	半期	2		○						
	日本文化史Ⅰ	半期	2		○						
	日本文化史Ⅱ	半期	2		○						
	美術工芸史	半期	2		○						
	外国考古学Ⅰ	半期	2		○						
	外国考古学Ⅱ	半期	2		○						
	文化人類学Ⅰ	半期	2		○						
	文化人類学Ⅱ	半期	2		○						
	人文地理学	半期	2		○						
	自然地理学	半期	2		○						
	地誌学	半期	2		○						

(次ページに続く)

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				考古調査士※		履修方法	備考
				1	2	3	4	科目群	区分		
関連科目	倫理学A	半期	2	○						S-プログラム選択者は、 展開科目・関連科目から 計20単位以上選択必修 P-プログラム選択者は 展開科目・関連科目から 計12単位以上選択必修	
	倫理学B	半期	2	○							
	哲学概論A	半期	2		○						
	哲学概論B	半期	2		○						
	日本美術史A	半期	2	○							
	日本美術史B	半期	2	○							
	宗教学Ⅰ	半期	2	○							
	宗教学Ⅱ	半期	2	○							
	国際政治A	半期	2		○						
	国際政治B	半期	2		○						
	政治学概論	半期	2	○							
	社会学A	半期	2				○				
	社会学B	半期	2				○				
	心理学A	半期	2				○				
	心理学B	半期	2				○				
	社会経済学	半期	2		○						
	社会保障論	半期	2		○						
	財政の基礎	半期	2		○						
	金融の基礎	半期	2		○						
	憲法ⅠA	半期	2		○						
	憲法ⅠB	半期	2		○						
	統計入門	半期	2	○							
	現代日本経済	半期	2		○						
	経営史	半期	2		○						

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。
 ※考古調査士資格2級（考古調査士資格認定機構公認）取得に必要な科目（「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」は考古学コース用に限定）
 資格取得に必要な単位数：Ⅱ群2科目4単位、Ⅳ群3科目4単位、Ⅰ群・Ⅲ群・Ⅳ群（選択）・Ⅴ群・Ⅵ群の中から2科目4単位以上
 考古調査士資格の詳細は、本学ホームページで確認してください。

5. 哲学科

哲学科には、哲学・倫理学コース及び美学・芸術学コースが開設されており、学生諸君は、いずれかのコースを選択し、履修規程に基づいて単位を修得しなければならない。コースの選択は、3年次前期の履修登録の際に行う。4年次前期においてコースを変更する場合には、教務委員と面談を行い、検討する。ただし、3年次の登録に際してコースを調整することがある。

哲学科の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > 教育 > 学部・学科 > 文学部 > 哲学科

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/letters/dop>



選択できるコース

哲学・倫理学コース

西洋を中心として、インド・中国・日本における広い意味での哲学・倫理学を手掛かりとしながら、「哲学する」ことを学ぶ。地域的、時代的、内容的に多岐にわたるが、各思想の基本的ないし原理的内容と意味とを、演習における文献読解と講義における総合的学習によって明らかにし、思考する精神を培う。

美学・芸術学コース

美学の成立と展開を歴史的に追いながら、その問題点と現代における可能性を探る。また、西洋・東洋・日本の美術史とその方法論、あるいは映画・音楽・舞踊演劇・建築などの個別的芸術学を学ぶ。美と芸術をめぐる諸問題を、さまざまな角度から考察する。

カリキュラムの構成と履修方法

科目区分		コース			
		哲学・倫理学		美学・芸術学	
基幹科目	演習・卒業論文※ ¹	16単位必修 「哲学演習」4単位を含め、 8単位以上選択必修		16単位必修 「美学・芸術学演習」4単位 を含め、8単位以上選択必修	
	共通科目※ ²	4単位必修	左記の必修・選択 必修 計20単位 を含め、 32単位以上 選択必修※ ⁵	4単位必修	左記の必修・選択 必修 計20単位 を含め、 32単位以上 選択必修※ ⁵
		8単位以上 選択必修		8単位以上 選択必修	
		哲学・倫理学系科目※ ³		8単位以上 選択必修	
	美学・芸術学系科目※ ⁴			8単位以上 選択必修	
展開科目					
関連科目					
合計		64単位以上※ ⁶		64単位以上※ ⁶	

※1 演習・卒業論文

哲学・倫理学コース、美学・芸術学コースともに、「基礎演習ⅠA・ⅠB」「基礎演習ⅡA・ⅡB」の4科目8単位、「卒業論文」8単位の合計16単位を必修とする。

「哲学演習」「美学・芸術学演習」については、哲学・倫理学コースは「哲学演習」の1科目4単位、美学・芸術学コースは「美学・芸術学演習」の1科目4単位を必修とし、さらにこれらの条件を含めて2科目8単位以上を選択必修とする。なお2科目以降は、哲学・倫理学コース選択者が「美学・芸術学演習」を選択することも、美学・芸術学コース選択者が「哲学演習」を選択することも可能である（多様な科目を選択することを推奨する）。ただし、シラバスの「授業のテーマ」で示される内容が異なるものを選択しなければならない。8単位を超えて修得した場合は、

その超過修得単位を「②展開科目」の単位として参入させることができる。なお、「哲学演習」「美学・芸術学演習」は、卒業論文の指導教員が担当する科目を履修することが望ましい。

※2 共通科目

どちらのコースを選択しても共通に学ぶことが望ましい科目群である。哲学・倫理学コース、美学・芸術学コースともに「西洋哲学史ⅠA・ⅠB」の4単位を必修とし、それ以外の科目の中から8単位以上を選択して修得することを必須とする。

※3 哲学・倫理学系科目

哲学・倫理学コースは、8単位以上を選択して修得することを必須とする。

※4 美学・芸術学系科目

美学・芸術学コースは、8単位以上を選択して修得することを必須とする。

※5 「共通科目」「哲学・倫理学系科目」「美学・芸術学系科目」からは、哲学・倫理学コース、美学・芸術学コースともに、それぞれのコースの条件を含めて、合計32単位以上を選択して修得することを必須とする。なお、哲学・倫理学コース選択者が「美学・芸術学系科目」を選択することも、美学・芸術学コース選択者が「哲学・倫理学系科目」を選択することも可能である（多様な科目を選択することを推奨する）。

※6 合計64単位以上

哲学・倫理学コース、美学・芸術学コースともに、必修・選択必修科目（計56単位）に加えて、「①基幹科目（演習・卒業論文は除く）」「②展開科目」「③関連科目」の中から8単位以上を選択して修得することを必須とする。

基幹科目

文字通り学科の基礎や幹を成す科目群であり、「演習・卒業論文」「共通科目」「哲学・倫理学系科目」「美学・芸術学系科目」から成る。

展開科目

「基幹科目」で学んだ内容をさらに発展させていく内容の科目群であり、自由に選択できる。

関連科目

教職課程の「社会（中学校一種）」「公民（高等学校一種）」の「教科に関する科目」のうち、「基幹科目」「展開科目」に含まれていない科目から成る科目群であり、自由に選択できる。

科目 区分		授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法		備考
					1	2	3	4	哲学・倫理学	美学・芸術学	
基幹科目	演習・卒業論文	基礎演習ⅠA	半期	2	○				8単位必修	8単位必修	授業のテーマが異なれば複数履修可 超過単位は展開科目へ算入
		基礎演習ⅠB	半期	2	○						
		基礎演習ⅡA	半期	2		○					
		基礎演習ⅡB	半期	2		○					
		哲学演習	通年	4				○	「哲学演習」4単位を含め、8単位以上選択必修	「美学・芸術学演習」4単位を含め、8単位以上選択必修	
		美学・芸術学演習	通年	4				○			
		卒業論文	通年	8				○	8単位必修	8単位必修	
	共通科目	西洋哲学史ⅠA	半期	2	○				4単位必修	4単位必修	「論理学A」修得者のみ履修可
		西洋哲学史ⅠB	半期	2	○						
		倫理学A	半期	2	○				8単位以上選択必修	8単位以上選択必修	
		倫理学B	半期	2	○						
		論理学A	半期	2	○						
		論理学B	半期	2	○						
		芸術学A	半期	2	○						
		芸術学B	半期	2	○						
		哲学概論A	半期	2		○					
		哲学概論B	半期	2		○					
		美学A	半期	2		○					
		美学B	半期	2		○					
		日本哲学A	半期	2		○					
		日本哲学B	半期	2		○					
	哲学・倫理学系科目	西洋哲学史ⅡA	半期	2	○				左記の必修・選択必修計20単位を含め、32単位以上選択必修	左記の必修・選択必修計20単位を含め、32単位以上選択必修	
		西洋哲学史ⅡB	半期	2	○						
		日本思想史A	半期	2	○						
		日本思想史B	半期	2	○						
		中国思想史A	半期	2	○						
		中国思想史B	半期	2	○						
		インド思想史A	半期	2		○					
		インド思想史B	半期	2		○					
		哲学特殊講義ⅠA	半期	2			○				
		哲学特殊講義ⅠB	半期	2			○				
		哲学特殊講義ⅡA	半期	2			○				
		哲学特殊講義ⅡB	半期	2			○				
		哲学特殊講義ⅢA	半期	2			○				
		哲学特殊講義ⅢB	半期	2			○				
		哲学特殊講義ⅣA	半期	2			○				
		哲学特殊講義ⅣB	半期	2			○				
	美学・芸術学系科目	日本美術史A	半期	2	○				8単位以上選択必修		
		日本美術史B	半期	2	○						
		東洋美術史A	半期	2	○						
		東洋美術史B	半期	2	○						
		西洋美術史A	半期	2	○						
		西洋美術史B	半期	2	○						
		美学・芸術学特殊講義ⅠA	半期	2			○				
		美学・芸術学特殊講義ⅠB	半期	2			○				
		美学・芸術学特殊講義ⅡA	半期	2			○				
		美学・芸術学特殊講義ⅡB	半期	2			○				
		美学・芸術学特殊講義ⅢA	半期	2			○				
		美学・芸術学特殊講義ⅢB	半期	2			○				

(次ページに続く)

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法		備考
				1	2	3	4	哲学・倫理学	美学・芸術学	
展開 科目	ギリシャ語Ⅰ	半期	2	○						
	ギリシャ語Ⅱ	半期	2	○						「ギリシャ語Ⅰ」修得者のみ履修可
	ギリシャ語Ⅲ	半期	2		○					「ギリシャ語Ⅰ」修得者のみ履修可
	ギリシャ語Ⅳ	半期	2		○					「ギリシャ語Ⅰ」修得者のみ履修可
	ラテン語Ⅰ	半期	2	○						
	ラテン語Ⅱ	半期	2	○						「ラテン語Ⅰ」修得者のみ履修可
	ラテン語Ⅲ	半期	2		○					「ラテン語Ⅰ」修得者のみ履修可
	ラテン語Ⅳ	半期	2		○					「ラテン語Ⅰ」修得者のみ履修可
	サンスクリット語Ⅰ	半期	2	○						
	サンスクリット語Ⅱ	半期	2	○						「サンスクリット語Ⅰ」修得者のみ履修可
	サンスクリット語Ⅲ	半期	2		○					「サンスクリット語Ⅰ」修得者のみ履修可
	サンスクリット語Ⅳ	半期	2		○					「サンスクリット語Ⅰ」修得者のみ履修可
	応用倫理学A	半期	2			○				
	応用倫理学B	半期	2			○				
	科学哲学A	半期	2		○					
	科学哲学B	半期	2		○					
	現代哲学A	半期	2			○				
	現代哲学B	半期	2			○				
	宗教哲学A	半期	2			○				
	宗教哲学B	半期	2			○				
	言語論A	半期	2			○				
	言語論B	半期	2			○				
	比較思想A	半期	2			○				
	比較思想B	半期	2			○				
	キリスト教概論A	半期	2			○				
	キリスト教概論B	半期	2			○				
	仏教概論A	半期	2			○				
	仏教概論B	半期	2			○				
	比較芸術学A	半期	2			○				
	比較芸術学B	半期	2			○				
関連 科目	日本史概論Ⅰ	半期	2	○						
	東洋史概論Ⅰ	半期	2	○						
	西洋史概論Ⅰ	半期	2	○						
	人文地理学	半期	2		○					
	自然地理学	半期	2		○					
	地誌学	半期	2		○					
	宗教学Ⅰ	半期	2	○						
	宗教学Ⅱ	半期	2	○						
	国際法の基礎	半期	2		○					
	国際紛争処理法	半期	2				○			
	国際政治A	半期	2		○					
	国際政治B	半期	2		○					
	政治学概論	半期	2	○						
	社会学A	半期	2				○			
	社会学B	半期	2				○			
	心理学A	半期	2				○			
	心理学B	半期	2				○			
	社会経済学	半期	2		○					
	社会保障論	半期	2		○					
	国際経済	半期	2		○					
	憲法ⅠA	半期	2		○					
	憲法ⅠB	半期	2		○					
	公共部門と財政	半期	2		○					

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

6. 卒業論文について（全学科共通）

卒業論文の意義

文学部の学生は、大学における勉学と研究成果の総まとめとして、全員が4年次に卒業論文を提出しなければならない。その単位は卒業に要する専門教育科目必修単位中8単位（中国文学科は「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」の計8単位）と定められている。学生の自主性を重んじつつ、指導教員が個別に指導・助言に当たる。学生諸君はこの論文をまとめることによって、初めて自己の学問的な立場を確立し、将来の進路の基盤を得るのであるから、その意義の重要性を十分認識しなければならない。論文作成のあいだ終始積極的に指導教員の指導を受け、中間報告をすることが必要である。

指導教員

1. 論文の審査・評価にあたる教員は、各学科所属の専任教員（教授・准教授・助教）とする。
 - ① 日本文学科においては、中国文学科の専任教員の指導を受けることができる。
 - ② 哲学科においては、文学部専任教員であれば哲学科以外の教員の指導を受けることができる。
 - ③ 外国語文化学科においては、文学部専任教員であれば指導を受けることができる。他の学部・学部の教員より指導を受けることを希望する場合には、外国語文化学科の教務委員の了承を得ること。
2. 次に述べる第一次題目登録前に、学科、専攻、又は研究室別、あるいは教員別に卒業論文作成上のガイダンスを行うことがあるので、掲示に注意し、そうした機会には必ず出席して指導を受けること。

題目届の提出

卒業論文の題目は、第一次（3年次）と第二次（4年次）の2回の登録が必要であり、その時期は次に示すとおりである。（あらかじめホームページから「卒業論文指導カード」をダウンロード・印刷し、指導教員の方の了承を得たうえで、指定の期限までに題目をK-SMAPYⅡに登録しなければならない。）

題目の未登録者は卒業論文を提出することができない。また、第一次題目を登録しなかった者は、次の年に第二次題目を登録する資格及び卒業論文を提出する資格を失う。したがって、第一次題目を登録しなかった時点で最低1年間の卒業延期が決定する。

なお、第二次題目は、当該年度卒業見込みがない場合も、4年次に必ず登録すること。4年次に第二次題目を登録せず、実質1年以上の卒業論文指導を受けていない留年生の9月卒業は認められない。

- 第一次題目（3年次） 10月上旬 所定日
- 第二次題目（4年次） 6月上旬 所定日

卒業論文指導カード

第一次題目登録前にホームページからダウンロードする「卒業論文指導カード」は、指導教員と学生用の2頁に分かれている。このカードに必要な事項を記入のうえ、教員用は指導を受ける教員に提出し、学生用は各自が保持して、論文作成の期間中指導を受けるたびごとの記録とする。

学生は指導教員の指示に従って、定められた時期ごとに論文作成上の指導・助言を受け、論文提出時には、この学生用「卒業論文指導カード」を論文の表紙裏に貼付しなければならない。

論文の用紙並びに枚数・体裁（84ページ図参照）

変更される場合があります。案内に注意してください。

縦書き

1. 【体裁A】万年筆等（消せないもの）で手書きの場合、B4判400字詰たて書用の原稿用紙（たて1行20字×20行）で50枚（中折り・裏表100ページ）以上とする。
2. 【体裁B】パソコン等を使用する場合、A4かB5の無地の用紙1ページ800字（例・40字×20行）の設定で25枚以上とする。

横書き

1. 【体裁C】万年筆等（消せないもの）で手書きの場合、A4判400字詰よこ書き用の原稿用紙（よこ1行20字×20行）で50枚（50ページ）以上とする。
2. 【体裁D】パソコン等を使用する場合、A4無地の用紙1ページ800字（例・32字×25行）の設定で25枚以上とする。

※1 無地の用紙を使用する場合、本文の末尾に「(40字×20行=800字)」のように、体裁（1ページあたりの文字数設定）を明記すること

- ※2 体裁A～Dのどれを選択するかは指導教員の指示に従うこと
- ※3 いずれの体裁の場合も、用紙の余白部にページ番号を振る（トピラは番号を振らない）こと
- ※4 外国語文化学科において原語を使用する場合には、A4判（27行）20枚以上とする。なお、書式については指導教員の指示に従うこと

論文の提出期日

1. 卒業論文の提出期間は、大学ホームページ及びK-SMAPYⅡにて締切日・時間等が発表されるので、この期限を厳守して遅れることのないよう注意すること
2. 締切日・時間に遅れた論文、第二次題目届と異なる題目の論文、及び上記の論文の体裁・規格にはずれた論文は一切受理しない。

体裁について

体裁A～Dの見本は教務課窓口・大学ホームページで参照のこと。

縦書きの場合【体裁 A・体裁 B】

ー表紙・トビラー 表紙及びトビラは以下のように作成すること

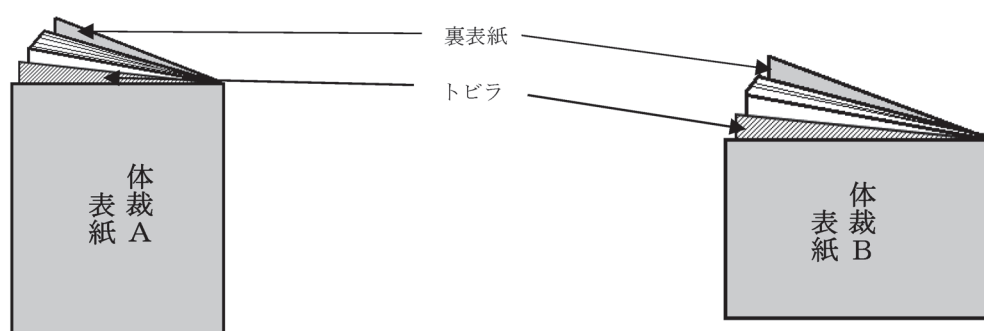
〔表紙〕

卒業論文題目	指導教員 國學院 太郎 教授 (准教授、助教)
卒業期 ○○○期○○学科 学籍番号 二○○○○○ 氏名 國學院 花子	

〔トビラ〕

表紙と同じことを 記入する。 (表紙と論文の間 につける)
--

ー見本ー



卒業期について：令和11年3月卒業見込みの場合は、卒業期は 137 期

横書きの場合【体裁 C・体裁 D】

ー表紙・トビラー 表紙及びトビラは以下のように作成すること

〔表紙〕

指導教員 國學院 太郎 教授 (准教授、助教)
卒業論文題目
卒業期○○○期 ○○学科 学籍番号 2○○○○○ 氏名 國學院 花子

〔トビラ〕

表紙と同じことを 記入する (表紙と論文の間 につける)

ー見本ー

